

## 1 中期学校経営方針

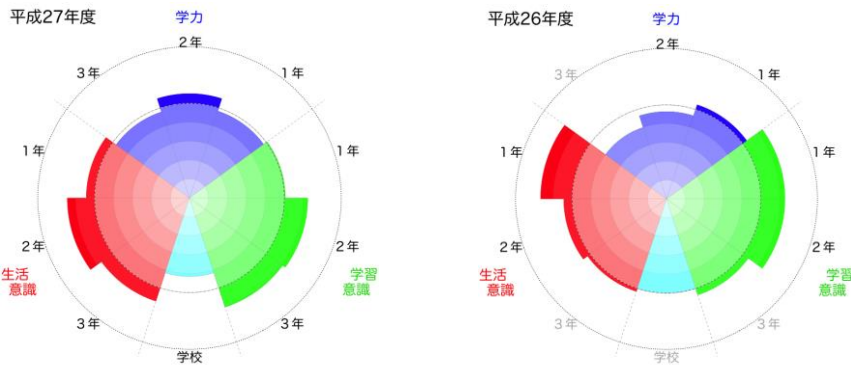
### (1) 学校経営中期取組目標

| 学校経営中期取組目標  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「総合的でバランスのとれた学校づくり」の実現に向け、教職員相互が啓発・連携し合い学校経営への参加意欲を高めるとともに、組織的・効率的な学校運営に努めます。</li> <li>○ 生徒一人ひとりが学力の向上を実感でき、価値ある生き方を求めて自己変革していくことを支援するため、教職員の研修を充実し、共通理解を深め理解力・指導力の向上につなげます。</li> <li>○ 開かれた学校づくりを一層推進し、学校・家庭・地域との連携・協働による学校づくりを進めます。</li> </ul> |

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

| 重点取組分野   | 取組目標   | 具体的取組   |
|--|--|---|
| <p><b>確かな学力<br/>(学習指導)</b></p> <p>担当 学習指導部</p> | <p>基本的な学習態度の習慣化を図る指導とともに、言語活動の場面を授業に設定することにより、思考・判断・表現の力を育む。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 全国や市の学力・学習状況調査の結果を検証し、授業に生かしていく。</li> <li>② 研究授業を行い、教職員がお互いの授業を見合い高め合う。</li> <li>③ 各教科において言語活動の力を高める授業の展開を研究する。</li> </ul> |

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



### (1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均をやや下回っている状況である。第2学年においては、外国語（英語）全般と国語の「読む能力」で市の平均を大きく上回っている。また学習意識・生活意識についても市平均を上回っており、経年変化を見ても着実に知識・技能の定着が図れてきていることが分かる。第1学年では、学習意識・生活意識とも市平均レベルであるが、第3学年では意識の高さがうかがえる。今後、より一層「分かる授業」づくりを推し進め、学力（基礎基本、活用能力）向上につなげていく必要がある。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科：文章の内容をとらえ、自分の考えを書く設問の正答率が、市平均を上回っている。
- 社会科：資料を読み、資料をもとに考えたり表現したりする設問の正答率が、市平均を上回っている。
- 数学科：「技能」が市の平均を上回っており、計算問題全般の正答率が高い。
- 理科：「知識・理解」に関する問題の正答率がやや高い。
- 外国語科：「理解」読むことに関して、読み取りの能力がやや高い。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成25年度から27年度過去3年間の経年変化の状況から、学習意識や生活意識は確実に高まっている。また学年が上がるにつれ、学習意識が高くなることも読み取れる。

生活意識調査の結果から読み取れる内容として、本校の課題の一つに、「読書量の少なさ」が上げられる。今後、各教科や総合的な学習の時間等を活用して、活字に触れる機会を増やしたり、そこから自分の考えを発信していく力（表現力、コミュニケーション能力）を高めていく必要がある。

### 3 平成28年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 国語

- 言語活動の充実、表現力の向上を図るために、少人数指導を行い、身に付けた知識・技能を活用する力を高めていく。
- 目的や場面、意図等を意識して話したり聞いたり、書いたり、読んだりすることを通して、思考・判断する場面を充実する。

#### 社会

- 関心を高めるために資料教材を工夫し、資料を見て自分なりの考えをもち、他に伝達する能力を高めることができるような場を設定する。
- 自分の考えを深めることができるように、社会的な事象に関する資料を活用した少人数による話し合い活動を計画的に取り入れる。

#### 数学

- 基礎・基本の定着を図るために、少人数指導等により数学的活動の楽しさや数学のよさを実感できるようにする。
- 実生活や実社会の事象を数理的に考察したり論理的に説明したりするなど、数学的活動を重視し、身近な生活と関連付けた学習を意識した授業の展開を心掛ける。

#### 理科

- 実験結果等を考察し、そこから自分なりの探求を深めていったり、自分の考えを他に説明する活動を授業に取り入れていく。
- 実験を計画したり事象を説明したりする活動を取り入れ、仮説の議論や結果の共有、考察の議論等において協働的に学ぶ場面を設定する。

#### 音楽

- 鑑賞に力を入れ、基礎的・基本的知識等を活用しながら、お互いの発表のよさを評価し合う場を設定する。
- 生徒同士が音楽表現について意見交換する場を意図的に設定し、よりよい表現を目指すことのできる学習展開を工夫する。

#### 美術

- 作品づくりの中で積極的に自己表現に努めることができるよう展開を工夫する。またお互いの作品のよさを評価し合う場を設定する。
- 題材全体の活動の中で、見直し・振り返りを大切に授業づくりを心掛ける。

#### 技術・家庭

- 小学校や他教科での既習事項や生活体験を生かした題材を設定し、実際の生活場面に活用していく態度を養う。
- 習得した知識と技能を積極的に活用し、作業過程において他とコミュニケーションをとりながらよりよい活動にしていけるようにする。

#### 外国語

- 言語活動の充実、表現力の向上を図るために、基本的な知識・技能を確実に定着させ、発信だけでなく、受け取る力を含めたコミュニケーション能力を高めていく。
- AET との会話活動を充実させ、興味をもって学べる場を設定する。

#### 特別活動

- 年間を通じて学級活動や生徒会活動等の自治的活動に主体的に取り組み、自分の考えを積極的に表現できる場を設定する。
- 学校生活や生徒会の取組、学校行事の関連などから課題を見付け、その解決に向け話し合ったり取り組んだりできる活動を設定する。

#### 総合的な学習の時間

- 言語活動の充実、表現力の育成を目指して、「読む」「書く」「発表する」活動を行い、積極的な自己表現に努めるようにする。
- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究の過程が単元の中で何度も繰り返され、スパイラルに高まる学習過程になるようにする。

#### 個別支援学級

- 生徒自ら自立活動の学習に主体的に取り組むために、一人ひとりの実態に応じた学習環境を整える。
- 個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図り、成就感を味わえるようにする。